

効果的な「協働的な学び」を活性化する英語授業 ーデジタル教科書を通してー

柳田 真弥* 建内 高昭**

* 附属名古屋中学校

** 外国語教育講座

I はじめに

本校では、本年度より2年にわたり、公益財団法人教科書研究センター（以下「教科書研究センター」）の調査研究事業として、以下のような目的で研究を進めることとなった。

令和6年度から、学習者用デジタル教科書（以下「デジタル教科書」）が段階的に導入されることになり、紙の教科書（以下「教科書」）と共に使用され、児童生徒の学びの手段が一層多様化することとなる。一方、教員養成大学においては、Society5.0における令和の日本型学校教育を実現するため、ICTを利活用して個別最適な学びと協働的な学びを展開し、児童生徒一人一人の学びを最大限に引き出せる次世代型教員の養成が求められている。このため、教員養成大学と連携した教科書に関する調査研究事業を実施することにより、教職課程の授業改善、教職科目や教員研修プログラム開発、デジタル教科書と教科書双方の質的・機能的な向上などを図り、学校教育の充実に資する。

本稿では、教科書研究センターが研究課題としている「授業における教科書とデジタル教科書を組み合わせた効果的な使い方」に焦点を当てた取り組みについて紹介する。

II 本年度の取り組み

1 個別学習から一斉学習の場面におけるフィードバック

学習者用デジタル教科書の効果的な活用の在り方等に関するガイドライン（文部科学省2019）によると、デジタル教科書の効果的な活用の在り方について、個別学習の場面では、

デジタル教科書を学習者用コンピュータで使用するにより、教科書では躊躇するような、教科書の紙面にペンやマーカーで書き込むことを何度も繰り返すことを通して、試行錯誤するとあり、学習者は個別学習の場面でデジタル教科書を利活用することができる。また、一斉学習の場面では、学習者用デジタル教科書を他のICT機器等と組み合わせて使用することにより、児童生徒が書き込み等を行った学習者用デジタル教科書の画面を大型提示装置に表示し、クラス全体に向けて発表させたり、複数の学習者用デジタル教科書の画面を比較しながら議論させたりするとあり、個別学習の場面で試行錯誤したことを共有する場面においてもデジタル教科書を利活用することができる。

Unit 9 Think Globally, Act Locally (NEW HORIZON English Course 1) のStory 1において、「メグになりきってスピーチをする際に、どの部分を強く読むとメグの思いが伝わるか考えよう」という課題に取り組みさせた。教科書本文の音読練習が終わった後に、課題を提示した。生徒は黙読や小さな声で音読をしながら、デジタル教科書に線を引いていた。その後、デジタル教科書のどの部分に線を引いたかをその理由とともに発表させた。「いとこの紹介をしているスピーチの場面なので、“This is Lilly Smith.”の文を強く読むといいと思う」、「自分が目標とする人のスピーチなので、“I want to be like her.”の文を強く読むといいと思う」という場面から考えられた意見や、「具体的な姿はないけど、“I want to help others”の部分にどんな人になりたいかというメグの気持ち

が強く込められていると思うので、その部分を強く読むといいと思う」という、内容から考えられた意見が共有された。(写真1) それぞれの意見の良さについて教師からフィードバックを与え、強く読むとメグの思いが伝わる部分をもう一度考えさせ音読を行った。

Look at this picture. This is Lily Smith. She's my cousin. She works as a doctor in different countries. She always wants to help people in need.

Now she's working at a small hospital in Kenya. She helps sick people there every day. It's sometimes difficult, but she tries to do her best. I want to be like her. I'm not sure about my future job, but I want to help others, too.

写真1

2 二次元バーコードを活用した授業

千石(2023, p.1)は、「今後のデジタル教科書は、いわゆる「教材一体型」が前提となり、これまでは別々に存在していた「教科書」と「教材」とが、シームレスに結びついていくことが予想し、紙面の中で完結していたクローズドな教科書は、これから、様々な情報にアクセスするためのオープンな「ポータルコンテンツ」へと変化していくことになる」と述べており、デジタル教科書から学びを広げる重要性を述べている。このことより、授業の中で二次元バーコードを活用して、様々な情報にアクセスし、学びを広げられるような取り組みを行った。

(1) 個別学習の場面での活用

Unit 9 Think Globally, Act Locally (NEW HORIZON English Course 1) において、教科書の通読を聞いた後、内容理解のためのキーワードが括弧で隠された問題に取り組ませた。生徒によって進度が異なるため、二次元バーコードを黒板に掲示し、問題が終了した生徒から学習者用端末でバーコードを読み取らせ、解答を確認させた。(写真2) 授業後、生徒に行った「二次元バーコードを使った授業に関するアンケート」では、「読み取りやすくてよかった」、「自分のタイミングでアクセス

できるのでよかった」という肯定的な意見は、33人中11人であった。他の生徒は、二次元バーコードを学習者用端末で読み取る不便さや、他の学習コンテンツの方が使い慣れていることを回答していた。

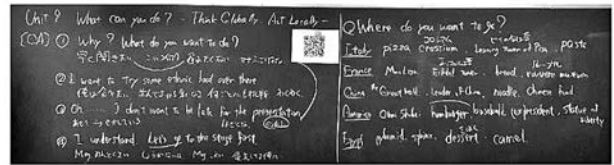


写真2

(2) 一斉学習の場面での活用

Unit 9 Think Globally, Act Locally (NEW HORIZON English Course 1) Story 3において、教科書の内容理解を進める際に、「Our volunteer group builds wells in places like this.”の文の“places like this”とはどんな場所があるか」という質問をした。生徒から「発展途上国」という意見が出たので、「アフリカにある発展途上国はどんな国があるか」と質問をした際に、List of developing countries as declared by the Minister for Foreign Affairs.

(<https://www.dfat.gov.au/sites/default/files/list-developing-countries.pdf>) の二次元バーコードを提示し、生徒の学びを広げた。

3 次年度に向けて

本年度行った取組みの「フィードバック」と「学びを広げる二次元バーコード」に関して、方法やタイミングなどについても試行錯誤し、教科書研究センターの課題としている調査研究を進めていきたい。

参考文献

- 文部科学省(2021) 学習者用デジタル教科書の効果的な活用の在り方等に関するガイドライン(改訂版)
www.mext.go.jp/content/20210325-mxt_kyokasyo01-000013738_01.pdf
 千石雅仁(2023)「今こそ「研究の役割を」」『センター通信』129, p.1 公益財団法人教科書研究センター